



ADRC Highlights

Vol.20

Asian Disaster Reduction Center Biweekly News

March 19, 2001

➤ ADRC 地域協力プロジェクト実施状況

ADRC ハイライト第 10 号で紹介しましたとおり、今年度 ADRC ではネパール・カンボジア・インドネシア・スリランカとの地域協力プロジェクトを実施しています。このたび ADRC スタッフが現地へ赴き実施に立ち会ってきましたので、報告いたします。

ADRC では、これらプロジェクトの成果・教訓を他のメンバー国と共有することを目的としており、それぞれが他国の良い参考となるよう期待しています。4 プロジェクトの最終レポートは 4 月以降作成予定です。

□ ネパール 防災普及啓発プロジェクト

(調査時期: 2001.2.19~24)



本年 1~3 月にかけて、ネパールでは全国 10 県、計 30 カ所、地域リーダーを対象にした防災普及啓発研修プログラムやラジオ放送を実施しています。研修プログラムの受講者は村長、教師、スカウトリーダー、女性リーダー、NGO リーダー、地元警察・軍関係者等で、1 回あたり 20 名程度です。

講師陣は、政府内務省の防災担当スタッフ、県知事、県警本部長、県灌漑担当官、県森林担当官で、政府の防災計画、組織体系、普及啓発活動、救援・救助活動、植林の伐採と洪水の関係等を講義します。

ネパールは地形上交通が不便で 1 カ所に集まるのが困難です。研修では、住民を遠路招集するのではなく、国、県政府の要職者の方から彼らの住む村々をまわり、草の根で啓発していくのが特徴的です。国・県レベルの連携も含めて普及啓発にかけられる政府の意気込みが感じられました。また、普及啓発パンフレットは識字率が低いことから、絵をふんだんに活用するなど工夫の跡が見られます。

受講者の方も、毎年洪水や土砂崩れなどの災害に悩まされていること、これまでこういった知識を持たず初めての研修の機会であったことから、熱心にメモを取り講師と議論を交わす姿が印象的でした。

さらに山村にテレビが普及していないネパールでは、全国ネットのラジオ放送は有効なメディアであり、朝夕のニュース番組後の視聴率の高い時間を狙って放送しています。

担当者である内務省ボカレル氏は、約 1 年前に客員研究者として ADRC に在籍していました。事前の準備や実施のためネパール国内を駆け回る同氏の姿を直接目にし、プロジェクト担当者の役割の大きさを改めて認識するとともに、客員研究員プログラムの成果を強く確信した次第でした。

(主任研究員 青田良介)

□ カンボジア 州・地区防災担当者向け防災教育訓練プログラム

(調査時期: 2001.2.15~17)

国家災害管理委員会 (NCDM) が ADRC と協力し、カンボジア国内のプノンペンをはじめ洪水常襲地帯の 3 州 (Kampong Cham, Kandal, Pursat) で防災を担当する州・地区災害管理委員会メンバーに対し、災害予防、災害対応等災害管理メカニズムにつき研修を実施しています。ADRC の小川所長と日下は 3ヶ所目の Pursat 州での開会式に出席し、研修の趣旨を説明し、実施状況を調査しました。

研修参加者は、州・地区災害管理委員会のメンバー 34 名で、開会式には NCDM 事務局長 Mr. Peou Samy のほか、第一・第二副知事も出席しました。指導のため首都プノンペンよりスタッフ 11 名が派遣され、参加者は 3 日間全員熱心に被害を防止軽減する防災・災害対策につき学び、研修は成功裡に終了し

ました。Pursat 州はプノンペンの北西約 180 km にあり、北に同国最大のトンレサップ湖、南にカルダモン山脈をかかえ、雨期には湖の水位上昇や山脈からの出水により毎年洪水が発生する地域であり昨年も 3 回被害を受けています。この研修が同国の災害被害の軽減に役立つよう心から期待しています。



Pursat での研修開講式

(主任研究員 日下太一)

□ インドネシア コミュニティベース洪水対策プロジェクト

3 月 5 日から 9 日にかけて ADRC のスタッフは共同プロジェクトの実施などのためインドネシアを訪問しました。

(1) コミュニティベース洪水対策プロジェクト
このプロジェクトの目的は、プログラムへの草の根レベルの住民参加によって、洪水被害の軽減をはかっていくことができるように、地域コミュニティのエンパワーメントを促進することにあります。今回は、コミュニティのメンバーが居住地域をよりよく理解するために、住民自らが地図を持って町を歩いて回り、災害発生危険性を持つ状況などを探して記録にとり、視察後改善点などについて話し合う「タウン・ウォッチング」を行いました。



地域住民、地方政府スタッフ、NGO スタッフ、バンドン工科大学の学生など約 27 名が参加し、バンドン市の 9 区、14 区で洪水被害軽減のためのタウン・ウォッチングを行いました。参加者は 3 つのグループに分かれて町を見て回り、視察後の発表では、非常に興味深い議論がもたらされました。

(2) ADRC ミラーサイトの設置

ADRC のサーバーはこれまで神戸だけに設置されていたため、何かの理由で停止した場合のリスクが大きく、また通信速度も 128 kbps に限られており、さらなる高速化が求められていました。このたび、バンドン工科大学の協力を得て、インドネシアに 2Mbps の通信速度を持つミラーサイトを開設しました。サイトへは <http://lpadrc.itb.ac.id/> からアクセスできます。また、今後はインドネシア発の最新災害情報を提供していく予定です。

今回のインドネシア訪問では、この 2 つのプロジェクトに加え、インマルサット衛星を利用したデータ送受信の実験を行いました。ADRC のスタッフは、水道も電気も通っていない、ジャカルタ南部のボゴール市に近い村を実験のサンプルとし、アンテナの方向や周囲の環境が衛星へのアクセスにかなり影響を与えることを認識しました。データの送受信は最終的には成功し、今後の災害発生地での利用などを検討していきたいと思

(主任研究員 バンバン・ルディアント)

□ スリランカ 災害管理トレーニングプログラム

3 月 26~31 日にかけて、地方政府防災担当職員を対象にした研修プログラムを実施します。ADRC ではこれに併せてスタッフを派遣する予定で、機会を改めて報告します。